

VI. 引用文献

- 1) 玉城 信・下地良男・古川凡・呉屋秀夫(1998)：貝類増養殖試験。平成8年度沖縄県水産試験場事業報告書，130 - 146.
- 2) 大城信弘・宇佐見智恵子(1992)：貝類増養殖試験。平成2年度沖縄県水産試験場事業報告書，190.
- 3) 村越正慶(1988)：シャコガイ類。サンゴ礁域の増養殖(諸喜田茂充編)，緑書房，東京，pp.248 - 261.
- 4) 佐々 勤(1965)：微細藻類の生育。藻類実験法(田宮 博・渡辺 篤編)，南江堂，東京，pp.185 - 202.
- 5) 渡辺 篤(1965)：微細藻類の分離法。藻類実験法(田宮 博・渡辺 篤編)，南江堂，東京，pp.24 - 45.
- 6) 有賀祐勝(1979)：生長の測定。藻類研究法(西沢一俊・千原光雄編)，共立出版，東京，pp.274 - 280.
- 7) 岩崎英雄(1979)：分離の一般操作。藻類研究法(西沢一俊・千原光雄編)，共立出版，東京，pp.177 - 189.
- 8) 喜田和四郎・谷口三津夫(1992)：トサカノリ。水産学シリーズ 88 食用藻類の栽培(三浦昭雄編)，恒星社厚生閣，東京，pp.128.
- 9) 今田 克・安部敏男(1982)：のりの培養における雑藻防除剤の研究。Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries 48(11)，1507 - 1516.
- 10) 玉城 信・下地良男・古川凡・呉屋秀夫・山本圭三・鈴木剛(2000)：ヒレジャコの種苗量産。平成10年度沖縄県水産試験場事業報告書，168 - 172.
- 11) 玉城 信・長谷川毅彦(1997)：有用藻類バイオテクノロジー基礎技術開発研究。平成7年度沖縄県水産試験場事業報告書，187 - 189.
- 12) 玉城 信・池之内晴美(1999)：有用藻類バイオテクノロジー基礎技術開発研究。平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書，187 - 189.
- 13) 玉城 信(1999)：平成8 - 10年度特定研究開発促進事業中間報告書(生物餌料の培養技術に関する研究)。沖2 pp
- 14) 玉城 信・村越正慶(1999)：シャコガイ共生藻の大量培養技術開発研究 - 2 (培養条件の検討)。平成11年度日本サンゴ礁学会第2回大会講演要旨集，pp.31
- 15) 玉城 信・村越正慶(1999)：シャコガイ共生藻の大量培養技術開発研究 - 1 (運動型細胞への変異条件の検討)。平成11年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，pp.61
- 16) 玉城 信・岩井憲司・村越正慶(2000)：シャコガイ共生藻の大量培養技術開発研究 - 3 (他種シャコガイ仔貝への給餌試験)。平成12年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，pp.59
- 17) 石間紀男・橋口渉子(1980)：分布によらない検定法。応用統計ハンドブック(応用統計ハンドブック編集委員会編)，養賢堂，東京，pp.72 - 76.
- 18) 村越正慶・勝俣亜生(1979)：シャコガイの増養殖に関する試験研究 - V。昭和53年度沖縄県水産試験場事業報告書，115 - 117.
- 19) 坂見知子(1994)：サンゴ共生藻単離培養株に対する水温、塩分、光の影響。平成6年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，pp.84

- 20) 石居 進(1975): 生物統計学入門. 培風館, 東京, pp.29 - 70. 論文題目: IV
- 21) 安楽正照(1986): シャコガイと共生藻. 海洋と生物, 42, 8 - 12. 論文題目: 1
- 22) 川口四郎(1990): 造礁サンゴの共生藻. 川崎医療短期大学紀要第10号, 13 - 18. 論文題目: 1
- 23) 増田和成・宮地重遠・丸山 正(1993): シャコガイが有する共生藻の光合成産物分泌促進活性とその作用特異性. MBIレポート1993, 115 - 118. 論文題目: 1
- 24) 河地正伸(1993): 渦鞭毛藻: ギムノディニウム目 *Symbiodinium microadriaticum* Freudenthal. 藻類の生活史集成第3巻単細胞性・鞭毛藻類(堀 輝三編), 内田老鶴圃, 東京, pp.24 - 25. 論文題目: 1
- 25) 堀口健雄(1997): 共生と寄生. 藻類多様性の生物学(千原光雄編), 内田老鶴圃, 東京, pp.99 - 101. 論文題目: 1
- 26) 神谷 律(1992): 細菌の鞭毛. 細胞の運動(神谷 律・丸山工作共著), 培風館, 東京, pp.157 - 159. 論文題目: 1